

第 149 回まちづくり町民講座

みんなで描こうニセコの未来～人口減少社会に立ち向かうための戦略とは～ 開催結果

1. 日 時：平成 27 年 11 月 16 日（月） 18：30～20：30

2. 場 所：ニセコ町民センター 1 階 小ホール

3. 参加者：37 名（一般 24 名、役場職員 13 名）

4. 内 容：

①挨拶（5 分）

②説明（30 分） 人口ビジョン骨子（素案）、総合戦略の方向性（案）

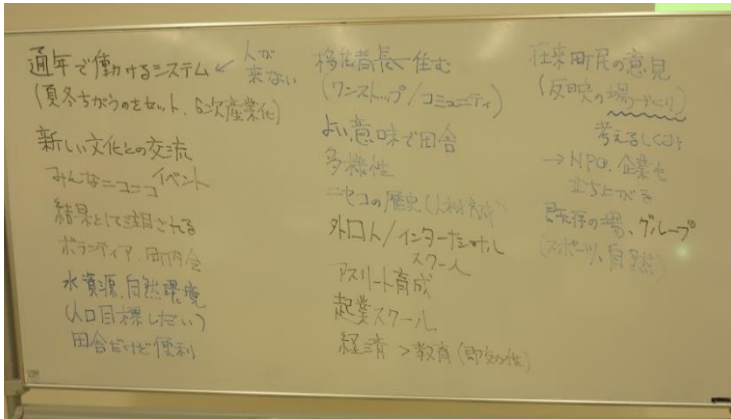
③参加者によるワールドカフェ（85 分） 4 名×8 グループ

「ニセコらしい未来」を実現するために集中すべき取組

5. 結果要旨：

- ・ ニセコには環境と景観が守られている。これからも守っていく必要がある。
- ・ 外部からのいろんな移住者が多様なライフスタイルを展開している。また、自然・景観、地域、行事、人などの要素を含め「いい意味で田舎」である。
- ・ 移住者からの意見のみならず、古くからの住民から多くの意見や参加を期待。それら両方のバランスが必要。
- ・ ニセコで行っている取組やモノ、歴史などの伝承、教育も重要であることから、ニセコのことを知り、伝えることができる人材の育成も必要。
- ・ 町内で通年で働く雇用を確保する。夏と冬とで違う仕事を組み合わせられるシステムができないか。多様な働き方としてテレワーク導入の可能性もある。
- ・ 人口減少を防ぐには転入者を増やす一方、転出を防ぐ視点も大事。
長く住むには、ニセコを地元だと感じる事が大事。それには人と知り合う、地域に入り溶け込むことが必要だが、移住者が地域に入るには、なかなかハードルが高い。地域側から寄っていくことができないか。
- ・ 移住者が長く住めるには、住みやすいかが前提。そのために、地域内での問い合わせに対し、ワンストップで人とモノとを繋ぐ情報提供の仕組みや、町内で気軽に出入りできるコミュニティカフェの設置などできないか。

- ・ 町内の情報は、あちこちに散らばっている。情報共有・情報公開の町だからこそ、情報の一元管理、発信できる仕組みを構築できないか。



(最後の発表で出された意見)

- ・通年で働けるシステム
(夏冬違う仕事をセット、6次産業化・・・製造業の場が多くなってほしい)
- ・新しい文化との交流、イベント
- ・移住者が長く住むことができる環境づくり (ワンストップ、コミュニティカフェ)
- ・よい意味で田舎
- ・多様性
- ・ニセコの歴史 (人材育成)
- ・外国人・インターナショナルスクール
- ・アスリート育成
- ・起業スクール
- ・在来町民の意見 (反映の場づくり) 考える仕組み。→NPO、企業も立ち上がる
- ・既存の場、グループ (スポーツ、自然)

グループ1

(1) 「ニセコ町らしい＝田舎で美しいけど便利なまち」という視点の取組【即効性のもの】

①住宅環境の整備

- ・住宅（アパート・マンション）を増やし、受入の場をつくる。
- ・ワーキングの場として部屋を提供する。
- ・持ち家政策をして定住につなげる。

②経済

- ・自然エネルギーを利用した自家発電の促進や売電の仕組みをつくる。
- ・ニセコ町ならどこでも使える電子マネーやポイントの仕組みをつくる。

③2次交通

- ・街と山をつなげる2次交通を整える。

(2) 「ニセコ町の未来」という視点の取組【遅行性のもの】

①教育

- ・シビックプライドを育成する。
- ・ニセコ高校をブランド化する。
- ・ニセコベビーブームを創出する。

②場づくり

- ・ニセコ町に住み続けている人からの意見を吸い込む。
- ・ワールドカフェをやり続ける。

(補足)

集中すべき取組として、どれか1つに絞り込むなら？のまとめにはたどり着けませんでした。ただ、どちらかという即効性のある(1)の取組のどれかだなという雰囲気でも終わりました。また、ワールドカフェをやり続けることが大事で、昔からニセコに住んでいる人にも来てもらいたいねという話題も出ていました。

グループ2

<1 ラウンド目>

- ・多くの町民が話し合いの場に参加することが大事。それについて今回皆さんで話し合いたい。
- ・役場の開催するものは堅苦しく、敷居が高いイメージで参加しにくい。役場でもっと工夫して参加しやすいものを作ったほうがよいのではないか。
- ・町民講座も移住者は積極的に参加しているが、地元の人が少ないと感じる。地元の人意見が大事ではないか。
- ・役場が主催するだけでなく、一般の方々がそれぞれ先頭に立ち、コミュニティに対して話し合いする場を設ければよいのではないか。行政だけでなく町全体で取り組むことが大事。

<3 ラウンド目>

- ・夏、冬それぞれの仕事を循環し、通年雇用されるようなシステムがあれば、収入が安定するのではないか。
- ・夏、冬だけでもよいが通年暮らせるだけ稼げればよい。ニセコ町全ての事業主が「稼ぐ力」を身につけることが大事。（企業向けの経営セミナーなど）
- ・ニセコらしさと言う部分でアスリートの育成に取り組んだ方がよいのでは。
- ・現在、ニセコではサッカー少年団があるが、中学校にはサッカー部がない。子どもが好きなスポーツに取り組める環境があってもよいのではないか。
- ・ニセコらしさ、やはりニセコはスノーが魅力。豊富な資源を活かしてウインタースポーツアスリートや観光、英語などに特化した大学があればよい。また、スキー場に競技の練習できる環境を整える。そうすれば、進学に伴う人口の流出だけではなく、都市圏からの進学に伴う移住を見込めるのでは。人材の育成、確保及びニセコのよさを知ってもらうことにつながる。Uターンも見込めるのでは。
- ・ニセコの将来に向けての取組としてやはり、環境保全が大事。環境保全に取り組む団体としてその活動をPRすることが大事。企業からのCSRを狙う。
また、夏冬の職の循環というのが具体的にどのような取組をすればよいのか。
- ・春から秋にかけて農業と冬は観光業を行う法人があればよいのでは。
- ・農業で利益をあげるのは難しい。そんなに簡単なものではない。
- ・個人として取り組むのは難しいかもしれないが、複数人で合同会社を経営して情報の共有、リスク、業務の分担、利益の追求を行えば可能なのではないか。
- ・他のグループでもうそろそろ都市計画を準備したほうがよいのではというような話もあった。

(補足)

思いが強い方がいたりなどでグループとして上手に、これに集中して取り組むべきというまとまった答えを出すことができませんでしたが、話しやすい雰囲気があったためたくさん意見を出すことができ、それぞれの意見に対して全員で話し合うことができたような感想です。

グループ3

●ニセコ町の主産業は何か？

- ・やっぱり観光と農業。観光は雪・山・川ってイメージが沸くけど、ニセコの農業って何だろう？真狩のユリ根みたいになんかこれってものはないけど、何でもあるのが強みではないか。でも印象に残りにくいかもしれない。
- ・農業に関しては、これからは有機農業の需要がもっと高くなると思う。Yes!cleanを最低基準としたレベルで有機栽培を推進していくべき。ニセコで作っているものだけでニセコブランドとして売っていくべき。東京でも有機農業による作物の需要が増えており、有機農業を始める新規就農者が増えている。

●ニセコにはきれいな空気、きれいな水がある。素晴らしい自然がある。

- ・それを残すため、保つために森の確保、維持管理が必要ではないか。
- ・数年前から水源地の売買問題があるが大丈夫か？ニセコ町は保護条例がある。
- ・自然に関しては、海外からの観光客のマナーが悪いところがある。ごみを捨てていく、危険なところが海外の危険なところと比べるとそこまで危険ではないため、入ったはいいが天候が崩れて遭難する、サンダルで登山するなどもみられる。マナーやルールを守ってもらうようにしていくことも必要。

●土地の有効活用の一つとして、子どもがもっとスポーツをできる環境を築くことが必要。

- ・サッカー場を整備して人を呼ぶ。サッカーだけでなく他のスポーツや災害時の避難所、休日などに多目的に使える施設を整備して、スポーツで人を呼ぶ。ニセコを知ってもらう。

●子育てしやすい環境をつくる。子育て中のお母さんたちが働きやすい環境をつくる。

- ・ここに行ったら誰かがいて、子育てのことを気軽に相談できたり、話したりできる井戸端会議のような場所、ママカフェのような場所、お母さんたちが集まる場所があったらいいのではないか。
- ・ニセコは自然もたくさんあるけど、子どもが遊べる公園が少ない。水遊びができる公園がない。ちょっと離れたところでもいいからモエレや滝野みたいな大人から子どもまで楽しめる公園が欲しい。公園が、来た人の交流、コミュニケーションの場となる。
- ・お母さんたちが働けるようにちゃんと預けられる場所がもっと必要ではないか。

●今ニセコにある環境・景観、それがあってのニセコらしさ！今あるもの（羊蹄山・水など）をしっかり外にアピールするとともに守っていくことが重要。

●農作物も働き方も、多様性があるのもニセコらしさ。

●ニセコ町の情報はいろんなところにある。この情報はここ、あの情報はあっちという感じで、情報収集が大変。情報発信の一括窓口が必要。ニセコ町は情報共有の町なので、いろんな情報を

一ヶ所で得ることができるということは、まさにニセコ町らしさにつながる。函館にある地域交流まちづくりセンターで近いことをやっている。非常に参考になると思う。

- ニセコに住んでいる人たちが楽しむことが重要。またそうしたものはどうやって始まったのかということをしっかり伝えるべき。
 - ・たとえば花火大会のように、線香花火から始まったものが住民が楽しむことでどんどん広がり、外からも人が来るようになる。
 - ・ニセコハロウィンも流行っているからやっているのではなく、ニセコに住んでいる外国人で地域にうまく馴染めていない人、また地域に住んでいた人たちもうまく交流できていなかったことから、中心となる人が種まきからはじめ、収穫し、みんなの交流を深める目的でハロウィンを行っている。単純にイベントで行っているものとは違う。
 - ・こうした始まりをしっかり伝えることでニセコらしさがそこにあることがわかる。
- 通年雇用をどう確保していくか？通年雇用がいい人もいれば、季節雇用がいい人もいる。
 - ・夏冬で職を変えて通年で働くというスタイルを形成できないのか？農業と観光、建設業と観光など事業者間でしっかりとマッチングを図ることで、働き手は通年で働くことができ、雇い手は毎回新規での採用ではないので、技術力の向上、指導などにかかる時間などの削減につながり、WIN-WIN の関係となるのではないか。
 - ・在宅ワークで通年雇用できるような仕事を確保できないか。
- 移住者をどう定住に結びつけるか？
 - ・移住者が交流しやすい環境、コミュニティに参加しやすい環境を形成していく。仕事などで移住してきたがなかなか地域に馴染めないという人もいる。
 - ・逆によい意味での田舎らしい地域でのイベントなどがあり、地域の人と交流する場があることで馴染みやすいという人もいる。
 - ・移住者同士のつながりも重要。新しく移住する人に対して、移住した人を紹介するなど不安を取り除くとともに、交流の場をもってもらおう。

- ふるさと納税により、人を呼ぶ。

(まとめ)

ニセコ町らしい未来の実現のためには、「ニセコ町に今あるよい意味での田舎らしさ（自然・景観、地域、行事、人など）」と「いろんな人がいるからこそある多様性」を守り、失わないようにすること。そのためにニセコにあるものや歴史などを伝承していく、教育していくことが重要であることから、ニセコのことをちゃんと知り、そして伝えていく人材を育成する。

グループ4

「ニセコ町らしい」とは何かを話し合い、そこから集中すべき取組みを考えましょうという流れになり、それぞれ自分の思うニセコ町らしさについて話した。

●「ニセコ町らしさ」とは

(自然)

- ・雪。パウダースノー。昔から変わらない魅力。
- ・夏は山、川、ゴルフ、食べ物、冬はスキー、スノーボードと楽しめる。
- ・景観が美しい。羊蹄山のインパクト。

(人)

- ・来たときは知り合いなどいなかったが、とにかく人に恵まれた。助け合いの精神がある。

(環境、労働)

- ・好きなことができる。季節ごとに仕事ができる。特にシーズンは仕事が多い。
- ・道の駅、あそぶっくなど、注目できる拠点がある。

●「問題点と、そこから見える集中すべき取組み」

(自然)

- ・景観と環境どちらを大切にするのか。自然が豊かだからといって、短期的に人がくるわけではない。長期的計画になるのでは。
- ・農業は多品種で特に目玉の作物がない。何か農業もワンランク上を目指してもらわなければ、今後につながらないのでは。付加価値が必要。
- ・再生エネルギー関連のビジネスを何かできないか。

(人)

- ・移住者は地域の人を知らなくても、その逆は必ず知っていると言っていい。悪く言えば、まだ関わったこともないのにその人の評価が決まってしまう。
- ・来る側、受ける側どちらの性格にもよるが、対策としては受ける側の土壌作りが大事。「人間性の高い人を作る環境」をどう作っていくかが今後の課題。

(環境、労働)

- ・テレワークなど在宅でPCさえあればできるような仕事をもっと誘致すべき。
- ・季節雇用がいいという意見もあるが、人口の持続的増加・維持のためには定住を進める必要がある。そのためには「通年雇用」が切り離せない課題となる。
- ・「ニセコ町らしさ」を考えたとき、普通の通年雇用ではなく、季節雇用＋季節雇用の合体型通年雇用を進めてみてはどうか。そのためには、季節雇用を紹介できる特化した窓口が必要。それは役場ではなく外部組織であるべき。
- ・夏「農家」＋冬「スキー場、除雪」を毎年やれる形態での事実上通年雇用。

- ・現状、シーズンには観光業（特にホテルのベッドメイキングなど）人手不足で札幌からバスで労働者を連れてくるほどなのに、仕事がないという人もいる。ビジネスマッチングまでいかななくても、ジョブマッチングのようなもっと軽い雰囲気でもマッチングできる組織が必要。
- ・雇用先がちゃんと募集は毎年かけているという意見もあるが、その情報がいまいち伝わっていないのではないか。情報が見えにくい。ハローワークでは「マッチング」というスタンスで動いていないと思うので、やはりニセコ特有の季節雇用をしっかりと発信し、それを毎年続けられるシステムを作る企業か組織の誘致が必要。

グループ5

<1 ラウンド目>

- ・ニセコ町に来る人は、自然環境と景観を求めてくる人が多いのではないか。雇用については、安定した雇用は少ないと思うが、その分いろんな働き方ができるし、自由を望む人もいる。
- ・学生時代に札幌で都市部の生活をしたが、地域に戻って来ようと思っていてニセコ町で働いている。一度都会に出て戻って来ても暮らせる仕事が必要。
- ・観光と環境、景観の連携がキーワード。多様な生活スタイルとのマッチング。
- ・安定的な雇用の場で働く人もいるが、季節雇用で労働環境が変わり収入が少なくても自由な時間の多い生活スタイルも方もいる。とは言って収入は少なくても生活への満足度が高く感じている人も多いのではないか。
- ・一定の期間で、地域を移り住む方もいる。そのような自由な過ごし方もできるのもニセコ町の魅力かもしれない。

<2 ラウンド目>

- ・外からの移住者が地域に溶け込むには、ソフト対策が重要。移住者は地域に入っていくことはあっても、地域側から寄ることは少ない。もっとハードルが低くなればいいのでは。仕事柄、飲み会やイベントに出かけていって溶け込んでいるが、長く暮らしていくにはその辺の仕組みが必要ではないか。
- ・以前は松山に住んでいたが、地域の住民だと実感はしてなかった。地域の人と接する機会があれば、地域に愛着が湧くのではないか。
- ・ニセコがよくて移住してきたが、地域と触れ合う場は多くはない。特に仕事でくる人はお祭りなどのイベントがきっかけとなって入っていけるのでは。
- ・ニセコの状況を見ると、働き方として、通年で同じ仕事のみという考えを変える。夏と冬の働く場所が違うが、働く場所が確保できることが必要なのではないか。
- ・例えば、1年中同じ職場で勤務しなくてもいい。在宅で働くことが可能になれば、住み方も変わってくるのでは。
- ・環境を守ると景観を守るの違いとは。
- ・環境は例えば森を守ったり水を守ったりすること。地区のルベシベ川では昔より水量が減っているように感じている。それを守ることが環境を守るとの視点。景観はそこからの美しい眺めなどの、環境より少し小さなレベル。

<3 ラウンド目>

- ・他のテーブルでは、ニセコはただの田舎ではない、との意見もあった。例えば朝の空気感、空の青さ、住んでいる人間の雰囲気など。しかしホテルは慢性的な人手不足。住むところもないのは実感として強い。
- ・80年代にニセコに移住してペンションオーナーになった方々も、移住から40年弱が経過し、既に地域に溶け込んでいる。先輩方はよそからの人との印象を持たれたのかもしれないが、もう移

住者が普通にいる環境となっている。

- ・しかし、移住者が増加している地域では、元々いる人が話しづらい環境になっていることはないか。
- ・ニセコは自然減だが社会増のため人口が微増している。人口を確保するには流入を確保することも必要だが、流入が続くかは不確定。流出をいかに減らし定着してもらう策も必要。定着には地域と関係性が築けるかの要素が大きい。
- ・移住者と地域をコーディネートできる部署（雇用、移住、子育て）、ワンストップ窓口があるといい。相談ごとと解決方法を繋ぐ役割。
- ・ニセコの農業は何でも作っている。特産がないのではなく、特徴のあるものを。
- ・多種多様な相談を受けるのは、行政（多分、不得手）、民間問わず。
- ・コミュニティカフェがあるといいと思う。大人だけでなく子どもも集れるスペースを。

（まとめ）

ワールドカフェ方式は、少数の人数なので話す順番が回ってくる機会が多く、大変だなと思っていましたが、20分×3セットは時間が不足する位、密接な時間となりました。

環境と景観を中心にこれまでまちづくりを展開してきた素地が理解され、移住者を呼び込んできている背景からも、「環境と景観」がニセコらしさの根本になっていることは、グループ共通の理解でした。

グループ6

〔住居関係・生活環境〕

- アパート不足。
- 家賃が高く、入居の障害（寮費ですら高い場合もあり）。
- 移住者が溶け込みやすいコミュニティがある。
- 田舎だがただの田舎でない感覚が大切（PRか？）（田舎だけど便利など）

〔雇用〕

- 時給高騰
- 選ばなければ職はある。
- NPOビジネスラスト運動（を進める？）
- コセコらしさを守れるNPOなどのビジネス創設が大切
- 自らをアピールし雇用につなげる方法をつくる。（ハローワークの逆バージョン）

〔自然環境〕

- 水など環境を守ることで人が来る。
- 優先して、住民が満足できる場所にするのが大切

〔教育〕

- コセコ高校を町民も利活用できるとよい。

〔その他〕

- 外国人とのトラブル

グループ7

〔ライフスタイル〕

- 何かを始めると人が集まる。
- 小規模でいい。自分たちが楽しむことをやるのが大切。
- 異文化体験で楽しめる。（ハロウィン・外国人との交流など）
- 古くからある祭りなどをアピール。みんなで参加しよう。
- 安心して住みやすい場所。（除雪、医療、買い物の足が心配）
- 住んでいる人の施策が大切（観光のためでなく）。
- 住んでいるひとが輝いていることが大切。
- 高校のレベルをさらに上げる。

〔子育て〕

- 子育て中の母は集まる場所を求めている。
- 子育てサポート（保育ママ）があればいい。

〔教育〕

- 進学で町外に転出しても、戻ってこられる町が重要。大学誘致も大切

〔町の魅力〕

- 町にある楽しさを探そう（有島記念館・ラジオニセコが魅力ある）
- 羊蹄山・水など自然・景観が魅力

〔雇用〕

- 安定して働ける職場が欲しい。通年雇用の場。もっと6次産業化した事例が欲しい。

〔その他〕

- ニセコは外国人で注目されているが、住んでいる人は何に注目しているか。
- 日本中から注目を集める住みよい町。結果として注目が集まる。

グループ8

〔移住定住〕

- ・都市とニセコを結ぶ仕事形態があるといい。
- ・30代～50代定職があったほうがいい。20代は自分の時間が欲しい。
- ・主婦の交流の場がない。
- ・新しい仕事の働き方の提案、通年で住める場所
- ・20代の方々や困った人を繋ぐ、色々な問題の解決策を紹介する「総合サロンが必要」。

〔町の魅力〕

- ・ニセコの冬はパウダースノー。程よい湿り気。これだけ低い山でいいパウダーのところはない。パウダーに当たる確率が高い。アクセスがよい。
- ・移住者を受け入れる土壌がある。
- ・元の住民との近所付き合いも大事。
- ・異文化も学べる機会がある。

〔地域性〕

- ・近藤小、丁寧に対応。なぜ近藤小に移住者が多いのか。
- ・学校門戸を広くPRしていく。
- ・地元・・・農家、移住者・・・二次 分離化傾向にある

〔ふるさと納税の活用〕

- ・ふるさと納税は各地でパイの奪い合い。そのためにはニセコらしい商品（特産品）を返礼する必要がある。
 - （1）基幹産業である農業では、何の商品を売り出すのか。
 - （2）イベントや物だけでなく商品やクーポン券を返礼。段々とニセコに来てもらう方策を取る必要（これはしないとニセコらしさがない）。

〔教育〕

- ・ニセコ高校の魅力を発信していく。
 - 町民講座などを開く（コミュニティスクール）。
 - スペース開放、コミュニティガーデン・・・高校の先生や生徒が指導する。
学生による指導で＝地元愛が生まれる。
 - 就業先をホテルだけでなく、エコツーリズムガイドなど土着性のある選択肢。
- ・インターナショナルスクールの授業料が高すぎる。町民無償化にしたらよい。

会場アンケート（文章表現はアンケート用紙記載のとおり）

1	ニセコ町にスポーツや、観光・英語に特化した大学があればよい。そうする事によって、ニセコ町の若者のみではなく町外、道外からの若者の移住が見込める。 また、よさを知った上で、一回外に出ても戻ってきてくれるかも。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・年輩者の意見も聞きたいです。 ・農業や観光などの分野別の意見交換会も伺いたい。 ・それぞれの分野の現状も含め、課題がたくさんあったと思う。 ・1つ1つあげるのは大変だが、協議会でも分野別の実態も知りたい。
3	時間が足りないのか、取組みが1個にしぼれず、ざっぱな意見発表となっている班が見られた。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自然にあこがれてニセコに来た方が実際に多いのか？ ・スキーをするために移住してきた方は、退職後働かなくても生計ができる方をニセコに集めるのか？ ・若い世代層がニセコに来ていただける町づくりをするのか？ ・年代層によって集めるターゲットが違ってくると思います。そのターゲットによって内容を決めていくことが大事かなと思いました。
5	ワールドカフェの試みは大成功！今後の更なる広がりや皆で作り出しニセコらしい戦略に仕上げましょう。
6	ワールドカフェでの議論は大変よかったと思います。通常の委員会などでは聞けない生の声も聞くことができました。人手不足、住宅不足、雇用のミスマッチが印象的でした。
7	思ったより人が集っていたので、町に対して興味を持つ人がいることは嬉しいと思いました。思いつきは必要と思います。“ひらめき”などから、新しい発想が生まれると思います。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセコに総合サロンが必要←困っている人々を繋げていってback upする。 ・都市とニセコを結ぶ仕事形態があるといい。 ・インターナショナルスクールの授業の無償化（町民の） ・通年で住める場所を増やす。 ・学校を中心に魅力を発信。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカフェはよかった。こんなにみんなで話ができる場づくりは、初めてだった。 ・情報共有がニセコ町まちづくりの基本だけれど、いまある情報1箇所に集めて、さらにそこから発信するという巨大インフォメーションセンターの設立を願っています。 ・ニセコのいい所はたくさんあるが、町民がそれに気付いていない。みんなでもっと掘り起こすべき。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、地元出身であるにもかかわらず、地元について知らないことが多いことが気になった。 ・ニセコの地理、歴史、人物などをもっと広く深く知ることで、自分と町との関わり、つながり、位置関係がわかってくると思った。それを知ることが、ニセコらしさを知ることになり、もっと能動的に町と関わるころができるようになると思う。そのことが分かると何を残していくのか、どうしてそれをするのかがはっきりと分かるのだと思った。 ・ニセコにも、様々な出身の方がいるので、その分ニセコを見る目がたくさんある。その様々な角度から様々なニセコの顔を照らし出していくと、もっと面白いことが分かるのでは。

	・ワールドカフェ、本当にお茶やコーヒーを用意したら、もっとリラックスできるかもしれませんね。
11	・ワールドカフェでのやり方はよかったですと思います。 ・アイスブレイクを入れるともっと進めやすかったです。 ・今後もワールドカフェを使ってください。 ・参加者も増えてきていますので、地元商店の方々も参加してくれるといいですね。
12	最初に「やってはいけないこと」を話されてはまずいと思う。 ※思いつきも大事。データに基づかない「ひらめき」も必要。
13	ワークショップの準備をしていなかったのと、とまどいましたが、普段話す機会のない人と会話ができてよかったです。
14	・「ワールドカフェ」の試みは、初めての参加ですが、これを積み重ねることが必要だと思います。 ・意見にあったように、既にある多様な団体・グループが交流する場の設定は、大事なことだと思います。 ・提起された課題については、継続性を持たせた討議—研究が必要ではないでしょうか。 →雇用問題、産業の育成、自然エネルギー
15	・ニセコ生まれニセコ育ちの方の参加が少ないのはいつものことですが、このような型式に対する抵抗感があるのでは？もっと小さな集まりを開けるとよいのだろう。町内会と飲み会でも、本当はみんな話し好きであろうと思う。
16	・この講座をただのものにするのではなく、形あるものに少しづつしてもらいたい。子どもの未来に触れている事を大人は考えていくべきだと思います。
17	ワールドカフェのやり方は、参加者全員の声 that 反映できてとてもよかった。まちづくりトークなどでも各コミュニティセンターなどでやってみてはどうでしょうか。地元の意見のくみ上げ方法としてもいいと思う。
18	・大変楽しい時間でした。高校での就職指導の形、価値を考えていかなければと思いました。 ・卒業後、何とかニセコ町で働ける環境を考えるべきだと思います。ありがとうございました。
19	ニセコには沢山の魅力があるので、過不足を補い合えば、きっと素晴らしい潜在能力を発揮できると思います。そんなコミュニティの場づくりの手助けができれば幸いです。
20	ニセコらしさ（自然の美しさ、雪、人のあたたかさ etc） CSRを活用して町が活性化。
21	大変意義のあるワークショップだったと思います。ありがとうございました。
22	・通年で働ける夏・冬セットのシステム、とてもよいと思います。 ・6次産業化もいいですね。 ・水や自然環境を大切にしてほしい。 ・人口はそれほど増えなくても現状でいけるように。 ・子どもが育っていて楽しく思えると鮭が帰ってくるようにやはりニセコがよいと思いついてくる。ニセコよさを子どもに伝えたい。 ・古くから住んでいるニセコ住民の意見も聞いて、まちづくりをしていきたい。 ・都市計画、自然を守りつつ開発してほしい。
23	1つのグループでテーマを掘り下げるのではなく、他のグループの意見を取り入れること話し合いがもっと深まったと思う。グループ発表にあった「集ってもらうのもいいが、既存のグループに入ってテー

	マを投げて話し合いをしてもらおう」というのはいいと思った。
24	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から住んでいる人の意見が反映されていない。その人達の意見を聞くシステム検討（移住者の声として）。 ・安定的な職がなく、中間所得層が少ない。 ・住民の意見を聞き続けることが大切。 ・低所得でも生活は豊か。ただもう少し所得アップ。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・この講座に参加している町民は「ニセコ好き」の印象←年配の人が多い。 ・継続した話し合いが答えを導き出すこともあると思った。 ・「ニセコらしい未来」に対するそれぞれの考えが分かってよかった。 ・このシリーズもどこかで一度着地点を見たいと思った。 ・在来種、外来種、役場職員のバランスが悪いと思った。 ・ワールドカフェスタイルは、コミュニティとしても有効であると思った。 →同じ取組みを「小中高、外人、女子、老人、役場」でも ・「ニセコだから」が重要なキーワードです。 ・他町村と比べニセコ町は、建設的、先進的な取組みをしていると思います。続く限り頑張ってください。
26	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセコの現状、課題をスライド、お話しで（文章化でまとめていただいているので）理解できた。 ・自己都合でワークショップには参加できませんでした。 ・まちづくりはデータどおりには行かないと思う。いろいろなタイプの人々が集えて、コミュニティがとれるような環境が必要かなと思う。